

## 学校での出前授業を10年間に60回行って

開倫塾

塾長 林 明夫

## 1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)経済団体の1つに、公益社団法人経済同友会というものがあります。この経済同友会には学校と企業経営者の交流活動推進委員会があり、そこでは企業経営者の皆様を講師として無料で学校に派遣し出張授業を行うプログラムを実施しています。その出張授業を初めて行う方々に、どのようにしたら学校での授業が上手くできるのかを伝えるオリエンテーションが、10月27日(木曜日)の午前9時30分から11時30分まで東京の新橋にある第一ホテルで行われました。
- (3)私は、この10年間で60回ほど出張授業に出掛けていますので、その経験を初めての方々にお話するようにという要請がありました。そこで今日は、そのオリエンテーションでお話した内容を少し紹介させていただきます。

## 2. 学校での出前授業を10年間に60回行って

- (1)私は、小学校・中学校・高校・大学・大学院に行ってお話をしていますが、大事なのは話の組み立てであると思います。皆さんにもぜひ学校に行ってお話をさせていただきたいと思いますが、何と言っても話の組み立てが一番大事です。
- (2)私の場合は、仕事とは何か・働くとは何か・勉強する意味は何かなどについてお話をして下さいという依頼が多いので、まずは自己紹介を入れて自分の仕事や活動をわかりやすく紹介することにしています。
- (3)それから、本題に入ります。この本題は、学校から与えられたテーマや学校が希望する内容をしっかりと頭に入れた上で、今日はどのようなお話をしようかとじっくり考えて決めます。つまり、レクチャープラン、授業の設計図のようなものを作ります。それを短い文章にまとめ、これをレジュメと言いますが、このレジュメに気づいたことや生徒・学生の皆さんにお伝えしたほうがよいことなどをどんどん入れていって、自己紹介のあとにお話するのです。
- (4)そして最後には、私の好きな言葉をお話することが多いです。私は、相田みつを先生の「一生勉強、一生青春」という言葉が大好きなので、この言葉を生徒・学生の皆さんにできるだけお伝えするようにしています。

- (5)生徒・学生の皆さんに伝えたいメッセージですが、その1つは、学校でのすべての教科の勉強はもちろん大事だが、教科以外の学校での活動も上の学校に進学したときに役に立ち、社会に出てからはもっと役に立つということです。その中で一番大事なのはトイレ掃除だということも、伝えたいメッセージとしてお伝えしています。
- (6)2つ目は、何のために学ぶのか・何のために生きるのかについて、時々でよいから考えてもらいたいということです。
- (7)3つ目は、自分のよさを見つけてそれを伸ばすことが大事だということです。しかし、子どもたちは自分のよさを見つけることが不得意です。そこでまずは、練習のために、家族一人ひとりのよさ、友達のよさ、通っている学校のよさ、住んでいる地域のよさ、栃木県、群馬県、茨城県や東京都などのよさ、日本のよさ等を探して自分なりにじっくりと味わうとよいこと、そして最終的には自分のよさを見つけてそれを伸ばしてほしいということをお伝えしています。つまり、よいこと探しですね。
- (8)また、生徒・学生の皆さんを前にしてお話をするときには気をつけていることの1つは、できるだけゆっくり話すことです。私は学習塾を経営し塾生の皆さんに教えることが多いので、とにかく話すスピードが速いです。そのため、この放送も聞き取りにくいことがあるかもしれませんね。ですから、ゆっくり話すように心がけているのです。
- (9)2つ目としては、難しい単語や言葉がたくさん出てきますので、日本の難しい言葉を易しい言葉に翻訳して話すようにしています。これを和文和訳といい、常に心がけています。
- (10)3つ目としては、人数が多いときでもどんどん質問してもらえるように心がけています。
- (11)それから、工夫していることの1つは、生徒・学生がメモを取らなくてもよいように、あらかじめレジユメを用意しておくことです。ただ、こうするとメモを全く取らなくなってしまうので、レジユメの中に自分の気に入ったところがあったらラインマーカーを引くことや、気づいたことがあったらそこに書き込みをすることをお願いしています。ノートを取ることは大事ですので、このようにすると少しはその練習になるのではないかと思います。
- (12)2つ目は、学校から事前に送られてきた学校の歴史・教育目標・現在の活動などについての資料を必ず読むことです。最近は何の学校でもホームページを持っていますので、それもよく見ながら授業に臨んでいます。
- (13)また、学校に行きますと、講師控え室があり、そこに学年あるいは学級の代表の生徒さんが迎えに来ます。その生徒さんから学校やクラスなどの様子を聞き、それをなるべく織り込んで話すようにしています。例えば、この学校の1番の特色は何か・部活動は何が盛んか・どんなスポーツをしているのか・先生はどのような方かなどいろいろなことを聞くと、よく教えてくれます。聞いた事柄の中からできるだけよいことを探してお話の中に織り込む、これが工夫していることの3つ目です。

(14)出張授業を成功させるには、事前の準備が大事です。準備がよいほど、話が伝わりやすいと思います。

(15)また、生徒・学生が身近に感じられる具体的な内容が多ければ多いほど、生徒・学生の目が輝きます。ある出張授業の折りに、知り合いのキルギスタン(キルギス共和国)からの留学生をお連れしたことがあります。その方は、ロシア語・キルギス語・英語・日本語の4か国語を話される方でしたので、非常に喜ばれました。

(16)一方で、失敗したこともあります。駅に降り立ってから目的の学校が見つからずに迷ったこともあります。また、話すスピードが速すぎてよくわからないと言われたこともあります。このようなことで、いつもいつも反省をしながらお話をしています。

### 3. おわりに

(1)こうして、この10年ぐらいの間に60回ほどあちこちの中学校・高校・大学などでお話をする機会がありましたので、経営者としてどのような内容のお話をすればよいのかを興味のある方々にお話させていただきました。

(2)放送をお聴きの皆様も、地元の小学校・中学校・高校の生徒さんたち、あるいは地域の子どもたちにいろいろな機会を設けてぜひお話をしていただけると有難いと思います。

2012年8月18日加筆訂正 林 明夫